

施策推進のための横断的な視点

将来都市像と五つの未来の姿の実現に向けて、各政策分野の施策推進に共通する四つの視点をもって、後期基本計画を推進していきます。

横断的な視点① 人口減少対策（少子化への対応、若者・女性施策の推進）

呉市の人口は、若年層の転出超過や未婚化・晩婚化に伴う出生数の減少が原因で、昭和50年（1975年）をピークに減少が続いており、令和6年度末時点で20万人を下回りました。この実態を踏まえて、呉市人口戦略対策本部を令和7年4月に設置し、全庁的に戦略的かつ施策横断的に人口減少対策を推進しています。

人口減少対策において特に重要性が高いことから、これまでの少子化対策に加え、若者や女性にとって、魅力的な雇用の創出と働きやすい環境の整備、暮らしやすい魅力的なまちづくりなど、子育て世代を始めとする様々な方に、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進める視点をもって若者・女性施策を推進していきます。

横断的な視点② 市民や企業、高等教育機関など多様な主体との取組の推進（海洋文化都市くれの実現など）

基本構想に掲げる将来都市像と五つの未来の姿の実現には、市民や企業、高等教育機関など多様な主体が持つ強みや特性を生かし、ともに取り組む視点を持って施策を推進する必要があります。

また、海洋文化都市くれを実現するために、呉市・広島大学 Town&Gown 構想[※]を推進し、関係団体等と連携することで、呉市の特徴である「海洋・海事」をテーマとして、海洋・海事分野の課題解決や地域経済の活性化等に向けた取組を行います。

横断的な視点③ 先端技術の積極的な活用による Society5.0 の実現

今後の市民生活や事業活動、地域社会は、大きく進歩した AI や IoT などの先端技術が、公共や民間が持つデータを核として駆動することにより、大きく変化していくことが見込まれています。

市民の利便性や生活の質の向上、地域経済の活性化などに向けて、呉市ならではの特性と最先端の ICT などを融合させながら、積極的に活用する視点を持って施策を推進していきます。

横断的な視点④ 様々な危機への対応と将来のリスクへの備え

呉市は、これまでも平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症など、市民生活や地域経済に大きく影響を及ぼす出来事に対処してきました。

今後も、大規模災害や新興ウイルスの流行など、様々な危機に直面する恐れがありますが、そのような事態にもこれまでの経験を踏まえて柔軟且つ迅速に対応するとともに、将来のリスクに備えていく視点をもって施策を推進していきます。

※Town&Gown 構想：日本を地域から躍動させるため，大学と大学が立地する地域の自治体が持続可能な未来のビジョンを共有し，包括的・日常的・継続的・組織的な関係を構築の上，自治体の行政資源と大学の教育・研究資源を融合しながら活用することで，地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成のための地域共創の場の形成を通じて地方創生を実現し，持続的な地域の発展と大学の進化をともに目指す構想です。呉市・広島大学 Town&Gown 構想では，呉市，国立大学法人広島大学，海上保安大学校，公益財団法人笹川平和財団の4者が連携協定を締結し，アジアにおける海洋・海事の国際的教育・研究・社会連携の拠点形成と地域社会等の活性化を目指して取組を行っています。